

# 決 算 報 告 書

自 平成 26 年 4 月 1 日  
至 平成 27 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610  
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

# 平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## 1. 事業総括

平成22年4月にNPO法人を立上げ丸5年が経過しました。本報告書では、26年度決算の説明の後26年度に実施した事業の概略をご報告申し上げます。

### 1. 26年度決算について

平成26年度決算は前年に続きマイナスで、単年にて約500万円の損益を計上する結果となりました。平成24年11月に「間伐材工房 元樹」を立上げ後、スタッフ給料や社会保険料等人件費関連及び、工房家賃や水道光熱費等合計で1,100万円強の固定費の支出を計上しています。24年度は立上げのキッカケとなった助成金にて賄えたのですが、25年度からは固定費の捻出が、組織を運営してゆく上で大きな課題となっていますが、当初フルタイムの正規職員2名とパート2名だったスタッフ構成が、現在はフルタイム正規職員3名とパート1名で、人員を拡大した構成にて組織運営を継続して来れました。前年度と大きく違うのが、助成金収入が25年度1050万に対し26年度は387万円と63%減っている事と、事業収益が25年度399万円に対し26年度666万円と前年対比166%に増えている事です。マイナス分は、金融機関借入に頼らず役員借入金で何とか賄って来ました。活動当初から、助成金や補助金に頼らない組織運営を目指し、活動理念に基づいた自主事業の確立図って来ました。確実に前進はしていますが厳しい現状がまだ続いおり、27年度事業にて大きな転換を図ってゆく計画です。

### 2. 森林整備保全事業について

25年度からスタートした林野庁「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」事業は2年目を迎え、25年度伐採し葉枯らし乾燥(伐採したままの状態です。一定期間山林で乾燥促す)した材の枝払い・玉切り・集材・搬出を、期の前半に実施しました。本格的な自伐型林業として素材出荷を目指し、付加価値をつける目的で葉枯らし乾燥の状態から施業を実施しましたが、安全面・効率面で大きな問題があることが判明した反面市場のニーズに合致しないこともわかりました。実際にやってみて判った事で大変いい経験になり、後半は南三陸町の別フィールドで、助成金や補助金に一切頼らない自主事業としての素材生産事業にも着手し計4回で材積71.3m<sup>3</sup>出荷し907,398円の売上を計上、経費を除いた収益も13万近くへのぼり、山主にも5万円強分配する事ができました。限られた装備や人力を主体とした小規模自伐型林業を実践し、非常に条件の良い森林での施業ではありますが、通常「立木1本から500円の収益が出れば良い方」と業界で言われている中、1本あたり1400円強の収益を出せた事や、小さな怪我一つなく安全な作業で得られた結果には満足しています。27年度も継続し、より安全で効率的な新たな施業方法にもチャレンジしてゆく予定です。また、地域のイグネ伐採も1件受注し実施、その後新たな依頼もありましたが、標準コストの産出がまだ不明確にて受注には至りませんでした、今後の課題として対処していきます。



栗原市若柳地域集積中継ポイント



南三陸入谷地域土場集積



南三陸戸倉地域土場集積



間伐材ステーションへの自力搬入



南三陸戸倉地域素材搬出(森林組合)



南三陸戸倉地域素材搬出(製材所)



# 平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## 3-1. 「間伐材工房 元樹」の運営について

工房を立上げ3期目の年となり、間伐材を活用し工房で製作する木工品を、より多くの人達に普及させる事で、活動目的に沿った自主事業としての確立を図るべくチャレンジを重ねた1年でした。ウッドブロックに加え主力となり得る商品として、相談を受けていた赤ちゃん用の「はじめての積み木」や、ログハウスを組み立てる「間伐材ログキッズ」を新たに開発し、市場調査と改良を加えながら商品となり得るクオリティーを確保する迄に至りました。25年度のウッドブロックのテスト販売をキッカケに、幼保施設で子供達に与えたい玩具や遊具の、アイデアや相談を受ける事が増えた結果開発にこぎつけ、良い評価を頂くまでになりました。26年度は既存の木工品以外にも、可動棚6台の発注や2施設への丸太原木納品、100個単位での記念品製作依頼等、徐々にではありますが工房稼働の良い方向に動き始めています。仙台市新緑祭や生協イベントの他、幼稚園でのマルシェ出店等様々な場所で「はじめての積み木」は受け入れられ今後主力品となり得ると確信しています。上記2商品の他、「椅子DEコンロ」や「わなげボードパズル」もラインナップに加え好評価を得ています。先発のウッドブロックも、既導入施設からの追加注文や紹介による新規注文等人気があり、今後のPRの仕方如何で大きな事業収益に繋がるとの手応えを感じています。更に、26年度後半には木工旋盤加工にも着手し、丸棒やプレート等製作の幅が広がり、ニーズを見据えた木工品の製作種類を増やしてゆく計画です。

## 3-2. 「間伐材工房 元樹」の運営のプラスα

昨年12月環境省「カーボン・オフセット」、今年3月農水省「総合化事業計画(六次産業化)」の夫々の認証を取得できました。共に工房で製作している木製品の商品化に向けたもので、NPOとして林業での六次産業化認定は全国的にも例が無く、新たな機械設備導入や工房整備の布石と考えています。また、「カーボン・オフセット」は、7月以降認証マークを付した商品販売が可能になり、他者との差別化含め付加価値をつけた商品販売の他、補助事業として念願のHP大幅リニューアルが現実のものとなりました。



はじめての積み木



わなげボードパズル



間伐材ログキッズ



椅子DEコンロ

## 4. 「間伐材ステーション」の運営について

月2回の定例活動を当初予定していましたが、メインの薪割り・薪作りへの活動参加が得られず、月1回の実施になりました。活動拠点が仙台市内から栗原に移った事が大きな要因の一つに挙げられると感じています。HPの更新が長期間なされておらず、ステーションが仙台市内と思っている個人や団体からのボランティア参加等問合せは時々ありますが、参加者の増加には至っていないのが現状です。前年から本格的に2箇所のフィールドでの除間伐を主体とした森林保全活動を実施し、従来林地内に放置されていた小径木や曲がり材等林地残材も、極力ステーションまで搬入し、薪燃料や工房で加工する木製品の原材料として活用を図るべく、相当量のストックを見込める様になりました。現状、工房スタッフを中心に薪作りを実施し燃料としての活用を図る他、可能なものは製材して加工用に乾燥しながらストックしています。27年度も当面は月1回の活動を予定しています。



定例活動：薪割り・薪作り



ステーション内薪棚



ステーション内丸太集積



# 平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## 5. 薪ストーブ普及活動について

26年度も新たな導入による普及は2件に留まりました。連携関係にある「みやぎ環境と暮らしネットワーク」との共催による仙台市内での2回の体験セミナー開催や、仙台市新緑祭や向山幼稚園(仙台市)マルシェ等イベントでの展示等、新たに作成したパンフレット冊子を配布し普及活動を展開。関心や興味を示す人が多いのは実感として感じており、問合せの連絡も年間5件前後あるが導入にまで至っていません。27年度は、普及広報活動の手法を再度見直すとともに、導入コストだけでなくランニングコストに焦点を当て、薪の調達の方法を森林保全・間伐材ステーションの活動と連動させ情報発信していこうと考えています。現在、複数の工務店や個人の方から導入に向けた相談を受けており、普及に繋げるべく丁寧に説明して行こうと思っています。



HP掲載用導入家庭写真撮影3



HP掲載用導入家庭写真撮影2



HP掲載用導入家庭写真撮影1

## 6. その他

昨年末、「間伐材工房 元樹」に公共施設の改修に伴う家具の発注がありました。当会のHPを見て、「間伐材を使って複数の家具を作れるか？」との問合せからスタートし、数回のやり取りを経て正式発注に至りました。発注額も大きく、本格的な家具製作の技術はない旨説明した上での受注でした。はじめての大きな依頼にて、事前に寺社仏閣建築も手がける地域の工務店棟梁に相談し協力要請を取り付け、正式受注後は棟梁の協力を仰ぎながら期限内に無事納品することが出来ました。河北新報紙面にも当会の名前が紹介されました。今までも、みやぎ生協全店に設置されている募金箱の製作や、小さなロットの製作依頼はありましたが、支給丸太製材～の大物家具製作は工房にとって良い経験になり、今後につなげて行きたいと思えます。



仙台市水道記念館(青葉区愛子)の納品したベンチ(2500<sup>円</sup>)と本棚2台